

手書き文字の特徴と性格の関連性について

齋田 慶子

指導教員：何 立風

1 はじめに

今日、職業選択や面接など自己アピールをする場面が多々あるが、自己分析だけでは自分自身がわかっていない自分（性格）があるのではないかと考えた。そこで自分が普段から書く文字の特徴と性格と結びつけることができれば、潜在している自分も知ることができるのではないかと考えた。本研究では少ない文字数で手書き文字の特徴と性格の関連性について調べ、手書き文字の特徴から性格を導き出せるのかについて研究する。

2 エゴグラム

エゴグラムとはエリック・バーンが発見したP（親的）、A（大人の）、C（子供の）の3つの心の状態（自我状態）をもとにジョン・M・デュセイが考え出した性格診断法で、PをさらにCP（批判的親）とNP（教育的親）、CをFC（自由な子供）AC（順応的子供）に分けた、CP、NP、A、FC、ACの5つの機能的自我状態（基本要素）（図1）で構成されている[1]。この性格診断法は19個の性格パターン（型）に分類分けでき、それぞれ異なる性格を表している。

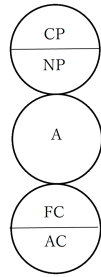


図1

3 手書き文字の特徴

本研究では4つの手書き文字「○、△、目、口」の中に出現する15個の文字特徴（表1）を本研究で用いる文字特徴と定義する。

表1 本研究で扱う手書き文字の特徴

「○」 綴じ口の位置	「○」 開きの有無	「△」 開きの有無
「目」 左上開き	「口」 左上開き	文字間「、」
「目」 左下開き	「口」 左下開き	文字の大きさ
「目」 中線離れ	「目」 中線さぼり	「口」 右下のさぼり
横一列かどうか	文字の位置1	文字の位置2

「目、口」左上開き、左下開きは「目、口」における左上に開きが存在するかどうかを表している。また文字の位置1は回答欄を縦に3分割した際、回答欄の左側、真ん中、右側のどこに文字が書かれているのかを表し、文字の位置2は回答欄を縦に3分割、横にも3分割した際、9分割した回答欄のどこに文字が書かれているのかを表している。

4 提案手法

パーソナリティ特性の一つである筆跡は、性格ごとに関連があるのでと考えた。まず初めにエゴグラムと呼ばれる性格検査方法（アンケート）を用いて、19個の性格パターンに分類分けをする。本研究では男子高校生221名、大学生60名（男子：32名、女性28名）の計281名を被験者とする。281名のうち、男子高校生201名、大学生50名（男性：27名、女性：23名）の計251名を実験として用いる。また残りの30名は検証考察に用いる。

次にアンケートから導き出された性格ごとに、文字特徴の出現

率が50%以上、60%以上、70%以上の特徴をその性格にあてはまる特徴とした時、それぞれ3つの出現率ごとに検証を行う。

最後に検証者の手書き文字の特徴から推測した性格と性格検査で判定した性格の一致率によって検証を行う。

5 結果と考察

一般性を確保するために、データ数が10以上ある性格のみを検証対象とする。文字特徴の出現率が50%以上、60%以上、70%以上の特徴をそれぞれその性格の文字特徴とした時、検証者の文字特徴から推測された性格と性格検査で判定した性格の一致率を表2に示す。ただし、一致率が一番高いものを赤文字で示している。

表2 性格検査と文字特徴から得られた性格の一致率（%）

性格（型）	人数	50%	60%	70%
AC 優位型	3	100	100	100
N 型	8	87.5	50.0	62.5
逆N 型	3	33.3	66.7	66.7
M 型	2	100	50.0	50.0
A 低位型	4	75.0	50.0	50.0

計30名の検証の結果、文字特徴の出現率の基準値を何%にしても一致率が変わらない性格や出現率が50%の時に一番一致率が高い性格がある。また出現率が50%の時に一番一致率が低く、60%や70%の時に一致率が高くなる性格もあることがわかった。AC優位型のように文字特徴の出現率の基準値を何%にしても一致率が変わらない性格は半数の人が持っている文字特徴と70%以上の人が持っている文字特徴に大きな差がないことから、同じ一致率になったと考えられる。また、N型やM型、A低位型のように出現率が50%の時に一番一致率が高い性格は半数しか持っていない性格が多いと考えられ、逆N型のように出現率が50%の時に一番一致率が低くなった性格は70%の人が持っている性格が一致していると考えられる。

6 おわりに

本研究の目的は、手書き文字の特徴と性格との関連があるのかどうか調べ、手書き文字の特徴から性格が導き出せるのかについて調査することであった。本研究では、検証に用いた人の95%以上の人が文字特徴から得た性格と性格検査で判定した性格の一致率が65%を超えている結果となったため、手書き文字の特徴と性格の関連はあるといえる結果となった。しかし一致率が50%台の人もいたことから一致率が70%、80%と上がればより正確な結果を得られる。そのため、各性格ごとのデータ人数を増やすことや、同じ文字を何通りか書いてもらい普段通りの字に近づけること、また文字特徴や手書き文字を増やしたり、本研究で用いなかった文字特徴を用いることで改善されると考えられる。

参考文献

[1] ジョン・M・デュセイ, "[新装版] エゴグラム ひと目でわかる性格の自己診断", 創元社, 2005